

釜石市議会議員 小野 共

釜石市議会通信

第3号



小野共です。いつもありがとうございます。年明け後、3回の臨時議会（1月15日、2月8日、2月15日）と、3月定例会がありました。順次報告します。

◆◆臨時会（1月15日開催）◆◆

市長から2議案提出され、1つ目の議案は公用車による追突事故に係る損害賠償事件に関する専決処分の報告、2つ目の議案は福祉灯油の購入費助成でした。

1つ目の議案は、平成19年9月27日に甲子町第9地割135番地、国道283号線で公用車が起こした追突事故に関する相手方への損害賠償金について、全額自動車保険より相手方へ118万3,555円支払われるもので釜石市長専決条例第2条第2号の規定により、市長が専決処分したとの議会への報告でした。

2つ目の議案は、原油価格の急激な高騰を受け、灯油価格の上昇が続いており、高齢者世帯、障害者世帯、母子、父子世帯等の低所得者世帯及び生活保護世帯を対象に一世帯当たり5,000円を助成するものでした。補正予算で民生費に2,250万円を計上し、全会派一致で可決しました。

◆◆臨時会（2月8日開催）◆◆

市長から3議案提出され、1つ目の議案は釜石市の副市長の定数を2人にするという条例変更、2つ目の議案は（株）サンロック清算への補助金の補正予算、3つ目の議案は岩手県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少に関し議決を求めることについて、でした。

1つ目の議案は釜石の副市長を現在の一人から二人にするというもので、市長からの説明によると、市でおこる様々な問題に対してスピーディに対応する為に戦略的な行政体制が必要であり、釜石の基幹産業の1つである水産業を発展させることによって市の経済再生に繋げたい、との事でした。

これに対して議員からは、副市長一人体制では出来ないのか、副市長をもう一人雇うだけの効果が出せるのか、部長ではなくなぜ副市長なのか、議会に発表する前にマスコミ発表するのは議会軽視ではないのか、なぜ議会に前もって相談がないのか、などの質問がなされました。

【2月8日臨時会の私の質問】

今の釜石が経済立て直しの為のまった無しの状態であることは同意します。水産業の振興を釜石経済の立て直しに繋げる必要があるというのも全く同意致します。しかし釜石の副市長の二人体制という言葉が一人歩きして、肝心の副市長を二人にして市長は釜石をどうしたいのか、或いはどう変えたいのか、副市長を二人体制にすることによって釜石の水産業はどんな発展の過程をたどりそれがどのように釜石の経済を刺激するのか、などという具体的な政策とアイデアが全く明らかにされておられません。今度副市長になられる方は釜石の政策などについても話をされていると思いますので、それを踏まえ釜石の副市長を二人にすることによって市長は何をしたいのか、そしてどう変わるのか具体的な話を聞かせて下さい。

に関して市が2,000万円の補助金を出すもので、会議冒頭で市民に対する市長の謝罪とこれまでの経過報告があり、議員から責任の所在はどこにあるのか、他の出資団体の清算への対応、なぜ出資者の中で釜石だけが清算費用を出さなくてはいけないのか、なぜ破産ではなく市が補助金を出して清算させるのか、などの質問がなされました。

【2月8日臨時会の私の質問】

過去何回かの全員協議会と勉強会を通じてサンロックについて様々な事情が明らかになりました。整理してみると今回の補正予算の提案は、(株)サンロックの社長と取締役が釜石市民の代表であるこの議会で、解散に基づく費用2,000万円を出すことの可否を議論しているのだと思います。社長の考えも取締役の考えもわかりました。過去何回かの勉強会を通じて議員の考えも分りました。ここでこの2,000万円の補助金を出す議案に賛成するかしないかを判断する為に必要な情報は、やはり市長がどう考えるのかだと思えます。2,000万円の補助金を出すことについて、幾ばくかの道義的責任はあるが法的責任は全くないこのお金を釜石市民が払うことの妥当性について市長はどう考えるのか。市民がこのお金を負担すべきだと考えるのであればそう考える合理的理由を聞かせて下さい。

◆◆臨時会（2月15日開催）◆◆

議案は釜石市副市長の選任に関し同意を求めることでした。2月8日の臨時会を受けて、副市長を上村俊一さんに選任することについて議会の同意を求めるものでした。

◆◆平成20年3月定例会◆◆

3月3日に召集され、3月19日に終わりました。3月議会は主に平成20年度の予算を議論致しました。3月議会の予算審議で私がした質問と役所側の答弁を掲載します。

【総務費に関する私の質問】

釜石市民一人あたりの所得について伺います。平成16年度の市町村民所得推計によると一人あたりの市町村民所得は、1位盛岡、2位北上、3位が釜石でした。同じ調査の中で就業者一人あたりの純生産の額もありました。1位釜石、2位花巻、3位北上、4位盛岡でした。三面等価の原則により、純生産の額と所得の額は多少誤差がでるものの一一致します。つまり釜石の人口一人あたりの所得は県内3位であるが、就業者一人あたりの所得は県内1位であるということです。

県内の有効求人倍率を調べました。釜石は県内10のハローワークの管内で求人倍率0.62で10市中8位でした。釜石は、他の地区に比べて仕事を探している人の割合が多いということです。ちなみに1位は北上で1倍を越えており、9位と10位は二戸と久慈でした。

釜石の就業者一人あたりの所得は県内1位であるが、人口一人あたりの所得になると3位に下がり、有効求人倍率になると10市のうち8位となる。これらの事実を分析して言えることは、釜石の有効求人倍率の低さを考えた時、釜石の人口一人あたりの所得が県内3位であることの理由は、県内で最高の給料をもらっているこの釜石の就業者21,418人が、釜石の人口一人あたりの所得を県内3位の水準まで単に押し上げているに過ぎないのであり、だから人口一人あたりの所得が県内3位であるという事実は必ずしも釜石の経済の実情を正確に表しているということとは出来ないということなのです。むしろ、釜石においては持つ者と持たざる者との所得の二極化が出来てしまっているということが言えると思えます。

質問致します。当局はこの現状をどう考え、釜石におけるこの所得の二極化の原因は何であると認識しているのか。

【総務費に関する私の質問】

生活交通路線運行維持補助金について質問致します。この補助金は、花露刃、大石、佐須、中村、箱崎白浜、向定内の高齢者や学生の生活の足として、県交通に対して出していたのだと思いますが、平成18年度に1,095万8千円補助だしているが今年度が992万5千円の補助と、100万程減額されているが、理由を聞かせて下さい。

(当局の答弁)

生活交通路線運行維持補助金は県交通の路線バスの赤字額に対して補填するものなので、県交通の赤字がその額であるということです。

【私の再質問】

市長がいつもおっしゃっている、子供に未来を、市民にやさしさをと、市民が安心して暮せる住みやすい町のことを言っていると認識しております。先ほど申し上げた地域の方々、自動車を運転しない高齢者の方々、そして学生は不便な生活を強いられております。これ以上不便な生活を送ることのないよう要望致します。

【農林水産業費についての私の質問】

生わかめの価格についてお聞き致します。先日、わかめの養殖している漁師の人と話をした時に、ここ30年間、わかめの取扱価格は変わっていないという話を聞きました。それで水産課で過去30年のわかめの取扱単価、共販価格を調べてもらいました。32年間の資料が出て来ました。昭和50年、今から33年前、生わかめの価格はキロあたり72円でした。平成18年、生わかめの価格は33年前と全く同じ価格の72円でした。値動きはあるが平均キロあたり90円前後でここ33年間推移しておりました。

ここ30年間わかめの養殖漁業家へのわかめの見入りの価格はほとんど変わっていないというのは事実でありました。

それで釜石の漁協の組合員がどのくらいいるのか調べてみました。

平成17年の調査ですが、東部漁協正組合員と准組合員が633人、釜石湾漁協の正組合員と准組合員で819人、唐丹で487人いらっしゃいました。つまり東部と釜石湾と唐丹で1,939人いらっしゃいます。直近の釜石の就業人口が21,422人ですので、実に就業人口の10%が養殖漁業から収入を得ていることになります。

養殖漁業で生活をたてている一般的な釜石の漁業家のモデルを調べてみました。

アワビ、ウニ、わかめ、こんぶ、ほたてをされている方の収入の約4割がわかめからの収入でありました。

副市長にお伺いしたい。水産業の振興を釜石経済の刺激につなげる為に、まずこの釜石の就業人口の10%にあたる養殖漁業家の人達の収入を上げることを考えることも釜石の経済を考える上でとても重要なことだと考えます。30年間わかめの取扱価格が変わっていないという事実を水産業の振興の観点からどう認識し、釜石市として何が出来ると考えているのか見解を聞かせて下さい。

(当局の答弁)

わかめをはじめとする生活必需品は物価の優等生と呼ばれ、ある程度価格の上限が決まっております。生わかめの出荷をボイルのわかめに代えるとか、収入増加の為、養殖の組合せを代えてみて、ほたて、かきを組み合わせるとか、考えてみる必要があると思います。

【私の再質問】

生わかめの出荷をボイルに代えてみるとおっしゃいましたが、今年はボイルわかめも高いようですが、去年までは灯油の高値の為、そしてボイル作業が高齢の漁師の人達にとって体力的にかなりきついため、去年のうちにボイルわかめをやっていた人達が生わかめの出荷に切り替えた人達が結構いらっしゃいました。今、簡単に生わかめの出荷からボイルに代えることが出来るのかどうかは疑問であると思います。

養殖の組合せを代えてはどうかとの事でしたがこの養殖の組合せは戦後70年かけて考えた、時間と労働に関して最も効率的な選択であると思います。だから今でもこの組合せでやっているのであると思います。確かに常に最も効率的な方法を考えることは同意致しますがそれもどうかと思います。

ただ周知の通り、水産業は我が釜石において基幹産業の一翼を担って参りました。水産業をこれ以上衰退させることのないよう、漁業家の人達のやる気をそぐことのないよう、政治と行政が全力でバックアップすることをお願いして質問を終わります。

【農林水産業費についての私の質問】

わが釜石が筆頭株主であるサンロックについてお聞きしたい。御存知の通り平成7年に資本金5,700万円で設立した第3セクターの株式会社であります。会社設立以来赤字で、繰越損失が2億5,000万あり、今月31日の株主総会で解散の決議の予定となっております。質問します。この13年間、サンロックが釜石市に対して果たしてきた役割どう考えるか率直な見解を聞かせて下さい。

(当局の答弁)

釜石の水産業の売上増加の為にある程度の役割は果たした。マツカワの技術は釜石の財産である。

【商工費に関する私の質問】

去年の10月23日新聞報道により、トヨタ系の生産子会社のセントラル自動車株式会社が宮城の大衡村に本社と工場を移転することを決定しました。宮城県はこの3月の4日に、東北自動車道に大衡村のインターの開設の平成20年度の着工を決めました。

トヨタの地元愛知では、人手不足が深刻化し、良い人材を求めて、北海道、九州、そして東北の生産体制を強化しているとの事です。大衡村の自動車の生産規模は年間12万台、金ヶ崎の関東自動車工業の生産規模は年間36万台であります。東北での自動車の生産規模は、数字上では48万台の見込みになりました。

新聞等の報道によれば、大手の部品メーカーが、組み立て生産に必要な部品を、輸送するのではなく現地で生産する目安は、50万台だそうです。

現在の東北の生産規模が48万台である以上、近い将来、大手の部品メーカーが東北に進出することは、全く現実的な話であります。

考え方として、釜石にどんな条件が整えば、大手の自動車部品の工場が東北に進出する時、釜石が現実にその候補地になると考えますか。

(当局の答弁)

3つ考えられます。釜石港から内陸までの物流ルート。釜石地域内で完結出来る製造技術。そしてまとまった用地であると思います。

【商工費に関する私の質問】

2月19日家電最大手の東芝が北上市に半導体フラッシュメモリーの新工場を建設すると発表しました。四日市市と北九州市との激しい誘致合戦があったとの事でした。東芝の投資額は、北上と四日市を合わせ、1兆7,000億だそうです。北上への投資総額は我が岩手の県予算を遥かに越える8,000億だそうです。北上への工場建設着工は来年平成21年4月の予定です。質問致します。北上への東芝の新工場建設の釜石の経済への影響をどう分析しているのか。

【教育費に関する私の質問】

平成14年の資料ですが全国47都道府県の高校生の大学進学率のデータがあります。大学進学率全国1位は京都の63.9%、2位は奈良の60.6%、3位は東京59.4%、4位は大坂55%、5位は神奈川54.1%であります。岩手の高校生、大学進学率は31.7%で、全国最下位でありました。質問致します。岩手と釜石の教育にたずさわる者として、客観的にこの事実をどう認識しているのかお伺い致します。



あ と が き

4月4日に唐丹町で発生した山火事は本当におそろしいものでした。何よりも消防団員の方々の活躍には本当に頭が下がりました。4日金曜日の夜から7日月曜日の夜まで72時間、夜は消防車の中で2、3時間の仮眠しかとらず消火活動を続けました。消防団員の皆様そして関係者の皆様本当にお疲れ様でした。

小野共事務所 電話(ファックス)兼用 55-2730